



2026 年 7 月

アラウコ社日本代理店
サカキバラコーポレーション

チリラジアータパインの現状と今後の見通し

1. チリ社会

サンチアゴ市内から見上げるアンデス山脈は一面雪化粧で冬のシーズンを迎えました。中近東情勢の落ち着きに伴い、6 月中旬からガソリン価格が下落しており、今年後半には中近東情勢によっては年初のレベルまで下落を政府は予測しています。しかし今年の消費者物価指数は前年比 4%以上に上昇する見込みで、政府は今年の GDP について、昨年より 1%減少の 1.6%あたりを予測しています。チリ銅価格は高値安定をしており、6.1-6.2 ドル台で落ち着いています。また為替市場はドルに対して 800 ペソ後半から 900 ドルのペソ高ドル安の水準です。今年 3 月に就任したカスト新大統領に対して国民の半数近くが不支持を表明しており、今後の政権運営が注目されます。

2. 世界市況

中近東市場はホルムズ海峡封鎖が解除した後にバルク配船を再開したい方針で、7 月に CMPC と共同でバルク配船を検討していますが、米国とイランの協議が難航しており、7 月バルク配船は 8 月バルク配船へ遅らせるか、7 月に一部をコンテナ配船にするか、今後の中近東市場を見ていく必要があります。また米国とイランの間では終戦後の復興事業計画も議題にあり、土木関連の調達候補にチリラジアータ製材を検討することは十分考えられますので、今後の他市場への影響も見ていくことになります。韓国市場は引き続きスプルーース下級材の入荷が欧州、バルト 3 国から低調で、チリ製材の引き合いはイラン情勢の中でも強い市場です。コンテナ運賃高騰やチリ国内の生産コスト上昇による製材価格上昇も市場に浸透中です。中国市場は引き続き景気回復の兆しがなく、家具、玩具、DIY 向け KD 製材販売は低調です。グリーン材市場は製材価格が安い為、チリ製材は市場で競合が出来ませんので、KD 製材の代替市場として販売数量を確保することは厳しい市況です。米国とイランの 60 日間停戦交渉が始まったことにより、ホルムズ海峡の解放を含めて

今後の世界市況にどのような影響が出るか準備をしなければなりません。

3. 日本市場

a) 配船スケジュール

アラウコ 3 月コンテナ配船 (1 番船) は 5 月中旬から 6 月までに入荷が終了しております。5 月コンテナ配船 (2 番船) は予定通り 5 月下旬から 6 月までに現地を出港しましたので、日本各港へは 7 月中旬から 8 月にかけて入港する予定です。

アラウコ 7 月配船 (3 番船) は 7 月中旬頃から 3 週間で現地出港を予定しており、日本入港は 9 月中旬から 10 月を予定しています。

今年のコンテナ配船スケジュールはアラウコが年間 5 回ですが、品質管理、在庫管理、荷あく期間短縮等を考慮して、来年コンテナ配船を継続する場合は年間 8 回配船 (45 日間隔) へ増やす計画をしています。年間 8 回のコンテナ配船になると、今年の 5 回配船より 1 回の配船数量が約 35%減りますので、市場にはプラスになります。

チリ大手はコンテナ契約を最長 1 年間、6 ヶ月、3 ヶ月、スポットを組み合わせして船会社と交渉をしてきました。しかし、イラン情勢により、3 月以降は最長 3 ヶ月の契約をベースに船会社と交渉をしています。今後の米国とイランの 60 日間交渉により、急騰したバンカーオイルに伴う船運賃が下落する可能性が出てきました。

b) 梱包市況

5 月連休明け以降の梱包需要は引き続き 10-20%減少が続いている市況です。

イラン情勢により、輸出木箱のコスト増加が各地で発生しており、ユーザーが梱包するタイミングを見ており、全国的に梱包する数量が減少しています。

今後のイラン情勢終結、ホルムズ海峡の解放等、世界経済の混乱が改善する兆しが出てきましたので、日本の輸出梱包市況も停滞していた需要が回復するかもしれません。

チリ国内のエネルギー価格は下がる傾向になりそうで、3 月から続いていた国内生産コスト上昇は落ち着く可能性が出てきました。

7-9 月のコンテナ配船は現地で約 8%の生産コスト増加になり、チリ各社は 3 番船のコンテナ配船で約半分の 3-4%値上げを実施しました。既に 4 番船のコンテナ交渉で 2 回目の値上げを交渉しているシッパーもあります。

為替水準が 162 円を超える円安ドル高水準で、前回船より為替コストは上昇しており、今回の 4 番船でチリ製材が 2 回目の製材価格値上げになれば、前回 3 番船の値上げ分と合わせて現行の為替水準では 2000 円から 3000 円以上へ製材価格を上げる必要があります。国産杉製材も生産コスト、物流コストが上昇しています。

NZ 製材業者も今後の NZ 丸太価格や国内製材コスト上昇により、再度の値上げを検討する段階になり、今後の梱包市況が注目されます。

以 上